

【源泉交遊】

「ミイラ取り」が「ミイラ」にならない為には・・・

鴨田氏が新市長になって、早くも2年余り過ぎ去ったが、高々と掲げた「改革」の公約はどこへ消えたのだろうか？・・・もしかして公約を忘れたわけではありますまい。

それとも「改革」と「改善」の区別が付かなくなったのだろうか。鴨田氏が市長に就任してこの方、時として「改善」はなされているようではあるが、未だ肝心の「改革」と言えるほどの案件にはお目に掛かっていないと言えるようである。

言うまでもなく「改革」とは制度や方法、機構など悪い点を改め変えることで、いわば従来の制度を「刷新」すること、再編成することであり、場合によっては流れを根本的に変えることである。それに対して「改善」とは主に「改良」することで、現体制を維持したまま変革することのように思うが間違いであろうか。とにかく新市長が誕生してこの方、旧体制（前市長の体制）に変化はなく、ただ旧体制の流れの中で物事が進んでいるようである。

これはれっきとした公約違反であり、残された任期の内に、数ある改革案件の内一件ぐらいいは手を付けておくべきと思うがどうであろうか。それがなければ市長は“嘘つき”のレッテルを張られることとなり、折角の大切な政治生命に傷がつくことになるであろうと予想される。だが、「改革」は言葉で言うほど簡単なことではない、必ず抵抗勢力が存在し、ともすれば抵抗勢力に飲み込まれ、意図せぬ間に抵抗勢力と同調してしまう事態も起こりうることもありうることである。つまり「ミイラ取りがミイラになる」ときである。

鴨田市長は就任当初、議会運営に苦しみ、旧体制（前市長の下で）で活躍した市の幹部の応援を得て、議会を乗り切ったことがあった。そして、その功績を買って自らの陣営を固めるべくその幹部を副市長に抜擢して重用している。しかし、市長はこの幹部たちを利用しているつもりでいるようだが、実際には利用されていることに気付かないのだろうか。しかも何倍も重く悪用されていることに・・・。

為政者にとって最も簡単で楽な行政は、既存のシステムに乗っかって出来上がっている旧体制の枠組みを十分に利用することです。特にカリスマ的な前任者の後ならば、なおさらのこと、特に何もしないでも回りが凡てお膳立てをしてくれるはずですが、それは旧体制を継承し加速化することに繋がってしまう危険な事です。つまり、改革されるべき既存の体制の中へ飲み込まれてしまうことになります。しかし改革とは、間違った既存のパラダイムの流れを変えることにありますが、既存のパラダイムの中へ入り込み同調することは、改革される側に付くことになり、ミイラ取りがミイラになることであり、改革の意思に反して改革を後ずさりさせることになり、時には改革とは逆方向になります。この現象が現在の当市の現状です。ではどうすべきでしょうか？いろいろと対策はあろうかと思いますが、まずは故事に習って、「泣いて馬謖を切る」覚悟と行動が肝要に思えます。一端の政治家ならば、市民のため、改革のためには、これくらいの非情な決断も時には必要ではないでしょうか。